
ツイッター小話折々。

梅鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ツイッター小話折々。

【Nコード】

N0548Q

【作者名】

梅鳥

【あらすじ】

サイキックフォースの小嘶折々。
色々捏造折々。

（前書き）

ツイッターで版權小説を書こうとして…ネタがあつという間に尽きた。

不思議なことに、一度ツイッターで表現してしまうと、その短いリズム感にあまり多くを書き足す気になれませんでした。というわけで、短い話の数珠つながりをご覧ください。

【tw-01】共闘

「まるで三流映画のようだな」

宝石のような彩り豊かに輝く宇宙船より、数条放たれたミサイルから、氷膜で護られたバーンが笑う。

共闘 - BURN & KEITH -

「嬉しそうだね」

呆れたキースは苦笑い。

こんな時にどういう神経か、我が友ながら。

無駄な争いを厭うのか、必要以上にスリルを味わうタイプなのか。

——と、思っていたら。

「お前と争わずにすんだ」

意外と真剣でかつ真摯な返答に、キースは喉に何かが詰まったように押し黙った。

「どのみち戦争じゃあ、諸手上げて喜べないがな」

突然現れた、宇宙からの侵略者。

地球人類は、手の平返し超能力者に救いを求め。

ノアもアンチノアもサイボーグも霊能者も、皆手を携えて大きな脅威と戦う。

「でも、全てのサイキッカーを解放して貰えたのは、助かった」

後に『宇宙大戦』と呼ばれる戦いにおいて、多大な活躍をした超能力者達への報奨は、人並みの人権——本当にささやかなもの。しかし、それこそが、彼らにとって、何ものにも代えがたいとても大切なものなのだ。

キースの唇が、皮肉の形につり上がる。

「戦いが終わったら、また、手の平返るかもね！」

戦っている時に、負ける事は考えない……平和を取り戻した地球で、どう生きるか、だ。

半ば独り言であったそれに、バーンは、その精神を高めながら一瞬だけ友人を振り向き笑う。

「それをさせないが為の、超能力者組織だろ？」

正論である。

意外と聴くて忌々しい。

「…正解！ 正解者へのプレゼントは、副総帥の椅子です。おめでとう…」

歯を剥き放った腹いせが、意外と妙案に思えたりして——含み笑

い。

この時、轟音と共に飛んできた巨大ミサイルが、

「何か言ったか？」

「ううん、何でもないよ？」

——キースの新たな企みを永遠に隠し、歴史を変えた。

バーンの腕に炎の鳳翼がうつすら顕現する。

「じゃ、行く」

重力で出来た蛇が、雷雲を纏って牙城を襲い——反対側に光臨した天使が、その力で敵を叩く。

先に攪乱に入っている仲間達と合流し、目的を達するべく、炎の能力者は飛び立った。

「ああ、晩御飯までに帰っておいで」

負ける事は、考えない。

考えるのは、勝った先の事。

そして、

我らサイキッカーが、数の暴力に怯える事無く、生と愛を謳歌できる安住の地を築き上げる為。

自分だけ、責任ひとつ無い気楽なところへなんか――
「逃がさん！」

友よ、僕の本当の願いを、きいてくれ。

【tw-02】護符

“鳥避けの護符”の効用か、俺とエミリオの足が影高野一步手前で止まるのを見て、キースが思い切り笑う。爆笑の域だ。

「すまんのう、今解除するから」

と言う玄真のおっさん！ お前の頬も引き攣ってるぜ？
悔しいから、

「替わりに蛇避けの護符でも貼ってみてくれ」
と言ってやった。

ブラドも引つかかるかも…だが、俺は知らん。

案の定（というか計算通り）ブラドと共に見事引つかかってくれた、キースへ数倍返しの爆笑をお見舞いしてやったら、季節外れの氷の竜が飛んできた。

…今度“魚避けの護符”でも引つかかるか、おっさんに試して貰おう。と、思いつつこちららも炎の鳥で応戦だ。

空気を読み過ぎて、手を出せない日本人のおっさんに代わり。

「あんたらは、一々超能力大戦並の喧嘩をすなっ!!」
俺らに、仲裁の拳をくれたのは、意外にもソニアだった……。
普段の彼女から信じられない強烈な罵りに、容赦の無い攻撃。
よっぽど、溜まったものでもあったのだろう。
恐ろしい思いをしたが、地に顔を擦り付ける勢いで謝るNOA総帥
の情けない姿に、俺は内心溜飲を下す。ケケケ。

【tw-03】プレゼント

「どうして君が？」
キースの問いにリボンをかけられたバーンが苦い顔。
「知るかよ…拉致られた」
動機は解るがなと口元を緩め、
「Happy Birthday Keith! …という訳で今
日だけはお前を殴らずとことん話し合わねばなららしい」
言葉を失うキースに、笑う。
「いい仲間を持ったな」
とことん、何とか拳を我慢して話し合ったら、何とかなった。
やっぱり、人間は、話し合いで理解しないといけないな、と、仲直
りの握手をする。

【tw-04】丸まる

「バーンって大の字になって寝ると思ってた」
エミリオの言葉にウエンディーが思い切り頷く。
「デカイ図体でキモチ悪!」
「うるせえ」

手足を折り畳み、無力な胎児のように丸く……
力に覚醒したての頃、睡眠中によくボヤを起こした。

この手足が、知らず大事なものを燃やしてしまわないように……包む。

「俺は、お前らが思ってる以上に繊細なのさ」
嘘だと笑う二人に、笑う。

【tw-05】ドードー鳥

2012年。

軍と影高野は結託し超能力者を駆逐した…ウオンはノアすら滅した
この世に独り残される。

その後8年——壮絶な孤独の中で半ば狂った男は、
かつてその座を篡奪しようとさえしていた、神に膝を折った。

「独りは嫌です…誰か」

最初で最後の祈りに応えたのは、神ならぬ炎の鳳。
その呼び鳴きが、永く忘れていたウオンの心臓を打つ。

「バーン君…？ いけない！ 影高野に見つかります…！」
そして、駆逐されると解つても飛んだ。最後の仲間を求めて……。

その声は、世界中に響き渡る滅びの金管。
だが、何より尊い福音。

【tw-06】ドードー鳥2

2020年。

寝て醒めたら酷い世界だった……

「…もう、寝ちまったか？」

超能力者が狩られ誰もいない…仲間を求め放つテレパシーに、応えたのは狩人たる影高野とウォン。

世界で二人きりでも反りが合わないと思ってた、彼との逃避行。

「お休み…ウォン。中々スリリングな日々だった」

悠久の孤独から解放された彼の傍、滅びの足音を聞きながら。

——最後の超能力者として、毅然と立つ。

【tw-07】愛は世界を救う

「お前は間違ってる！」

キースの目に張り付いた憎悪の鱗は、

「お前は、お前を三年必死で探した俺の思いよりも、研究者達への憎しみの方が大事なんだな…」

友の涙が雪ぎ流した。

「ゴメン、バーン…僕が間違ってた」

だって、強いのは、憎しみよりも愛でしょ？

「いいんだ」

心底嬉しそうな、友の手は熱く——それを取り。

愛は、世界を救った。

以後、彼らが登場しない世界史は皆無。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0548q/>

ツイッター小話折々。

2011年1月16日03時24分発行